

RPF再生資源燃料の生産工場竣工

～ G20におけるプラスチック資源循環戦略の一助となる事業 ～

日本ウエスト(株)は、資源循環型社会の大きな役割を担う施設となる RPF 再生資源燃料の生産施設の竣工を迎えました。

「RPF」とは **Refuse derived paper and plastics densified Fuel** の略称であり、主に産業系廃棄物のマテリアルリサイクルが困難な古紙及び廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料。今までは、焼却や埋立てにてただ単に無いものとされてきた廃棄物が、資源となる。RPFは、主に発電用で使用され、石炭やコークス等、化石燃料の代替として、大手製紙会社、鉄鋼会社、石灰会社など多くの産業で化石燃料の使用削減を目的に使用されている。

【プラスチック資源循環戦略】の一助となり持続可能な社会のために貢献する

《新工場概要》

[敷地面積] 3,267 m² [工場面積] 1,617m²
[生産能力] 3,016.8m²/日 (約170 t/日、約4,200 t/月)



《求められる背景》

- [1] 中国や東南アジア諸国において、日本からの廃プラ輸入規制が拡大するなか、国内での資源循環利用が早急に求められている。海洋プラスチック問題をはじめ、世界の廃プラ問題をも視野に入れ、プラスチック資源循環体制を早期に構築する事が求められている。【過剰に滞留する廃プラスチックの適正な再生処理を実行的に進める施設】
- [2] この様な背景において、本国で本年6月に開催されるG20において、今回策定される「プラスチック資源循環戦略」が発表される。閣議決定された「循環型社会形成推進基本計画」の基本原則を踏まえ、効果的・効率的なリサイクルシステムを通じて、持続可能な形での循環利用、熱回収によるエネルギー利用を含めることが盛り込まれた。これにより日本では、廃プラスチックのリサイクルを100%とする考えだ。
- [3] 本戦略の展開を通じて、国内でプラスチックを巡る資源・環境両面の課題を解決し、日本モデルとして我が国の技術・イノベーション、環境インフラを世界全体に広げ、地球規模の資源・廃棄物制約と海洋プラスチック問題解決に貢献し、経済成

長・雇用創出など、新たな成長の源泉となる。

- [4] 海洋プラの問題が論じられているが、SDGS（持続可能な開発のための 2030 アジェンダ）でも求められている、熱回収を含めた適正処理を進めていく一端を担う。
- [5] このRPF再生資源燃料は、地産地消の脱石炭社会へ直結し、汚染防止を実行的に進める施設である。
- [6] 脱石炭にて気候変動等の課題解決に大きな役割を果たす。RPF再生資源燃料は、新たな化石燃料を使用することなく温暖化ガスの発生を削減する。
- [7] 最新の設備導入により労働環境の改善、災害等における地域社会への責任や物流の多角性をも重視したシステムの構築。
- [8] 工場棟には、太陽光パネルを全面に配置し再生可能エネルギーの運用を行う。

【お問い合わせ先】

名称：日本ウエスト株式会社

住所：京都府京都市伏見区表町 590 番地 1

担当者：三上恒親

TEL：075-604-1655

E-mail：tsunechika_mikami@japan-waste.co.jp

